

事業名 障害者在宅就業ネット「マニファクチャBU」の設立
分類 (障害者支援モデル)
障害者の生活支援、自立化支援を目的とする活動
期間 05年9月～11月

◆事業の内容と結果

1. アンケートの実施

- ・アンケートの目的。施設の障害者と施設の支援者、及び施設以外の障害者の就業に対する考え思い。
就業希望障害者の把握と、情報の提供
- ・アンケートを実施100名の回答を得た。
- ・回答のまとめと回答者への情報提供の開始

2. 育成すべき障害者の教育と実習、訓練

- ・DVD作成講習会 7月16日～30日 4日間 受講者5名
- ・ホームページ作成講習会 9月7日～28日 4日間 受講者6名
- ・インターネット動画講習会 10月7日～28日 4日間 受講者4名
- ・画像編集講習会 10月19日～11月9日 4日間 受講者5名
- ・CAD描画は見込みが少なかった為、個別レッスンに変更した。

3. 就業実務・作業

- ・DVD(ビデオ)編集事業は9月に受注が始まり発展が見込まれ本格的に着手。現在ワーカー6名と世話人2人のDVD作成グループが作業を継続している。
- ・ホームページ作成業務は、実際に仕事を受注した際に必要な技術の習得を図る実務研修を実施した。
- ・講習会事業は独自の実務研修を実施し、受講者のスキルアップを図った。

今回の助成による事業で、障害者在宅就業ネットワークに於ける事業の核が見つかり、ある程度の将来見込みを持つことが出来た。この様な働き方を始めたり維持発展させるためには、初期段階での資金と仕事量の確保が重要であった、今回の助成金や多くの関係者によるご助力に感謝している。

働きたいと思っている障害者の募集が難しいことが分かった。自治体やハローワーク、その他の支援者との協調が必要だと思う。

◆事業の成果

- ・17年度春に障害者の在宅就業を目指したネットワーク「マニファクチャBU」の設立をした、そして年間200万円程度の安定的な仕事を得ることが出来、18年度に向けてさらなる発展の可能性が見込まれる。
- ・ワーカーにとって、少ない金額ではあるが学び働いて得たことは大きな意味があると思う。
- ・私共団体の設立趣旨の一つである障害者の就業支援事業で、今回の様に計画を組み実行をした最初の事業となった。これからの活動に経験を生かしてゆきたい。
- ・大都市圏では、官民あげて支援している在宅障害者就労プロジェクトが散見される、四国では徳島県がマイクロソフトとの協働で行っている。
香川はNPOが民間会社と協力して展開している。我々も現在は風の前の塵のごとき存在ではあるが、今回の事業で大きな自信を得て次のステップに進める糧となった。

◆愛媛県下への効果

- ・今回の障害者在宅就業ネットワーク「マニファクチャBU」の成果は、距離や体力で通勤が困難な障害者や高齢者に新しい働き方を示したと思われる。18年4月からの「障害者雇用促進法の一部改正」で企業のアウトソーシングの受け皿である「障害者在宅就業支援団体」を目指す団体には、今回のシステムが役に立つように思える。

- ・営業や機器のメンテナンス、研修の人材が確保できれば、ITのネットワークは従来とは違った働き方が出来る、愛媛のような山間地や島嶼部を抱えた地域では、これからの就労希望者にとってITのネットワークによる就労は、障害者だけでなく多くの人に役立つシステムと思われる。
- ・公的支援のある障害者施設はもちろんだが、行政からの助成が見込めない我々就業支援を行う団体にも、初期投資の資金と人材の確保、受注の見込みがつけば、ワーカーに作業料の支給が出来る。この事は同様の事業を目指す他の団体へのサンプルとなり、やってみようと思う力となると思う。

[▲ページの頭へジャンプ](#)